

ピアノ調律師より

オトトビラ

OTONO TOBIRA

Vol.8

特集

ピアノとシンニア



オトトビラ

OTONO TOBIRA

Vol.8

特集

2

ピアノとシニア

✿ 大庭園子先生
✿ 松本純子先生
✿ 長江千恵先生

8

学校とピアノ

school 01

進学校でのピアノ授業 九州支部 宮本日出夫

school 02

「響け!ムジーク永久に~未来へつなぐ音色~」
びわ南小学校「フォイリッヒのつどい」
実行委員会事務局 中川 有紀

11



ペットとピアノ

● 柴犬 そらんさん ● 柴犬 麻呂さん

12

調律師から見たピアノのお稽古

日本ピアノ調律師協会 / 吉川 満之

14

ピアノライフを楽しもう!!

ピアノライフのためのグッズ特集

16

第2回 ストリートピアノ

● 四国支部 香川県高松市 ● 中部支部 愛知県岡崎市

18



調律師 趣味の本

「ビル・エヴァンスについてのいくつかの事柄」

中山康樹 著 河出書房新社 日本ピアノ調律師協会 九州支部 足立 修治

ピアノのはなし その6

20

アップライトピアノが入るなら、グランドピアノも入る?!



本誌及びバックナンバーは(一社)日本ピアノ調律師協会のホームページからご覧いただけます。

日本ピアノ調律師協会



スマホの場合は
右記のコードを
読み取ってくだ
さい。



大庭園子先生



高校音楽科から北海道教育大学中学音楽課程へ。

卒業後4年間自宅で指導、8年間の育児での中断を経て現在の自宅にて大庭ピアノ教室を開業。水泳指導員・民生委員・子育てボランティアなども務め、ピアノ以外にも地域からの信頼厚い存在。

ピアノとシニア

ピアノがシニアにあたえる効果とは？
シニアにピアノを教えておられる先生方にお話を伺いました。

取材

北海道支部 広報部

本州方面から新千歳空港へ。南風運
用で着陸する時は長沼町上空を飛行機
が大きく旋回し、眼下に緑豊かな田園
風景が広がります。ここ長沼に教室を
構え約25年。大庭ピアノ教室には子供
はもちろん、元気なシニアも通います。

大庭先生が、大切にしている小さな切り抜きを見せてくださいました。北海道新聞のくらし面「いずみ」欄。女性だけが投稿できる人気コーナーです。2020年5月25日、ここに教室の生徒Tさんの投稿が掲載されたのでした。

に初めて参加する
発表会が新型コロナウイルスで
中止になったこと、お月謝の工面、
練習の苦労などがユーモラスに綴られていました。先生とTさんにお話をうかがいました。

「グリーグの組曲『ペール・ギュント』より『朝』。ほんの最初のさわりだけだが、人生初の発表会で弾くはずの曲だった」から始まり、この年の3月

Tさんが習い始めたのは70歳のとき。ピアノは「町長さんの娘さんが弾くもの。自分には縁がない」そう思いながらも、長年心の中に憧れは持ち続けてきたそう。古希を迎え、なにか脳のトレーニングを・・・と考え始めた頃にリサイクルショップでキーボードを見つけ、早速購入して習い始めました。今は、縁あって譲り受けたピアノで練習しています。

「やっぱり本物のピアノはいいよね」



近くで催されるコンサートは必ずと言っていいくらい聴きに行くものの、クラシックファン、ということでもな
いとのこと。「○○の作品番号〇番、
みたいのは難しくてちよつと苦手。
”セミ・クラシック“が好き」クラ
シックの小品、スタンダードナンバ
ーや映画音楽が易しくピアノアレ
ンジされたものを先生が探しますが、
Tさん希望の曲で程良い難易度の
楽譜が見つからないときは、先生
自ら楽譜を書くことも。「少ない音
で、曲の持ち味を損なわず、Tさん
に弾きやすいように工夫します」
そのうえで、「弾けそう？難しい？
それならこの音は弾かないことにし
ましょうか・・」と話し合いながら、
少ない音をさらに省いたりもしてと
楽しそうです。

Tさん曰く難しいのは「いまだに右
手と左手が一緒に動いちゃったりする」

という指のコントロール。「先生が本
当に根気よく教えてくださるの。もう
来なくていいと言われるまで、習い続
けたい」と言えは、先生も「難しく
こそ脳トレ(笑)。ゆつくりやりまし
う」お互い全く焦りはありません。

発表会は、感染対策をしながら翌年
再開。以来Tさんは毎回出演してい
ます。夏場は戸外での活動が忙しく、
練習がおろそかになりがち。「前のレッ
スンより悪くなっちゃったりする。何
故だかどんだん下手になる(笑)。全然
弾かないまま来て、先生に練習に付き
合わせている感じ」でも、短い秋が
終われば冬はすぐそこ、寒く家に閉じ
こもりがちな季節こそが、Tさんの
ピアノ練習に熱が入るときです。「発
表会はいつも3月。本番前にしつかり
練習できてちょうどいい」と笑う大庭
先生。おらかなお二人です。

今年も雪の便りが聞こえてくるころ

には、大庭門下全員が発表会に向けて
猛練習を始めます。Tさんもちろん
参加、先生が見守る中たくさんの
お客様の前で演奏します。この世か
ら病や戦争が無くなりますようにと、
祈りを込めて。



松本純子先生



地元の音大を卒業後、カワイ音楽教室にピアノ講師として勤務。カワイ音楽教育研究会札幌事務局による「ライラックコンサート」「オータムコンサート」に出演多数。

—先生が受け持つシニアの生徒さんの印象は

「何歳からがシニアさんなのかしら？70代の生徒さんでしたら、現在4人いらっしゃると思います。ある程度保護者さんのご意向で習っているお子さんたちと

違い、大人の方はご自分の意思でお越しです。みなさん意欲的でご自宅でお稽古はしっかりされているし、大人同士なので言葉で細かいニュアンスまで説明できるので、理解の面では断然大人の方が早いですね」

—レッスンはどう展開されていますか

「過去に習った経験の有無で進度が大きく異なりますが、何よりも生徒さんご自身がこの曲で、どの程度まで音楽性を追求したいかが大切。曲は生徒さんが自ら選ばれたり、一緒に探したり、習熟度に合わせてこちらから提案することも。たとえば有名なあの曲を、となったとき、時間がかかっても

完成度には多少目をつぶっても、原曲そのままを味わいたいのか。あまり苦勞をしない簡単バージョンで雰囲気を楽しみたいのか。選曲は、ご希望される演奏上の到達点や完成度に直接関わる、大切なプロセスです」

「音大受験ではないので、楽典・楽理については今練習している曲に関わることだけにしています。いつも五線紙やメモ紙を用意して、既存の教材だけではわかりにくい箇所や憶えにくいところは、図示・図解でも説明します。効果的なペダル使用のためには構造から説明することも。どなたでも、きちんと楽譜を理解すれば、あとは練習することでピアノを弾くことは出来るようになります」

—シニアの生徒さんならではの難しさは

「今まできちんと弾けてきた方でも、いつしか”加齢とともに離鍵が遅くなる”という傾向が見られ、弾きづらさ

の原因の一つになっています。ストイックに練習される方でもそのような意識しなければだしも自然とそうなるものなのでしょう。そういった体力面や指先の微妙なコントロールに關しては、若い方にはない難しさがあります。その修正を目的に、ハノンを使ってゆっくり、離鍵“だけに気を付けて、”弾き終えた指を意識的に持ち上げて弾く“お稽古をしてみましかと提案し、実際に改善してきている方もおられます（もちろん、ハノンでなくても構いません）。大人の方は練習の目的や意味が伝わりやすく、地味なお稽古も嫌がらずにやってくださるのが嬉しい」

レッスン中はお互い真剣ですが、時にはおしゃべりが弾んでしまうこともあります。『個人的なことを話してくださる方は多いです。』ここで先

生に話してスッキリしたわ！』と笑顔を見せてくださるとやはり嬉しいものです。長く生きておられるということには、それだけ様々な経験をされ広い見識をお持ちということ。私にとってはおしゃべりも大切な学びの時間です」

過去にも何人もシニア生を受け持った先生に、最後に「弾けるようになれなくて、挫けてレッスンをおやめになる方は？」と問いかけてみました。

「わたしの受け持った方では、今のところいらっしやいません。レッスンをおやめになる理由は”健康上の理由””加齢による生活環境の変化”がほとんどですね。シニアの方は、現役世代と違い練習時間の確保も出来ていない様子で、深く考えて弾いてきてくださいます。そして、次のレッスンまでに、という目標があることで生活にリズムも生まれ気持ち前向きでいられると

お聞きしています。弾き続けることにみなさんとても積極的です」

「とは言え、だしも加齢で自然に体力は低下しますし、体のどこかに痛みを抱えてレッスンに、というのは難しいでしょう。自家用車を手放すなどで、通うことそのものが困難になるのも避けられませんが、いつかはどなたもレッスンをおやめになります。でも本当に嬉しいのは、ピアノを嫌いなになって・興味を失ってやめられる方がいないこと。通院しながらもきちんとお稽古してきて、『先生、私、音を奏でることで気持ち明るくなるんです』と言ってくださる方もいらして、本当にピアノという楽器・音楽の素晴らしさを感じずにいられません。これからもピアノレッスンを通じて、シニア世代のみなさんのお役に立てるよう精進します」

＊ 長江千恵 先生 ＊



ながえちえピアノ教室主宰。全日本ピアノ指導者協会正会員。各種コンクールで生徒を毎年のように全国大会へ導きご自身も指導者特別賞などを受賞、子ども指導に定評ある長江先生ですが、シニアの指導にも積極的。「私自身がプレシニア。まず、加齢による心身の衰えをとて理解できるのが若い先生とは違うところ(笑)。何よりも『無理をさせない』ということを大事にしています」。

多くの生徒を抱え華々しく活躍する先生ですが、曰く「私は落ちこぼれ」「音大受験で志望校に落ちたの。当時の先生が音楽専攻のある短大の二次募集を見つけてくださって。初めて耳にした短大だったけど、行くしかなかった。真面目に頑張ったけど、短大ってあつという間に卒業でしょ、物足りなかつたわ」。地元へ戻るにあたり一般就職を選択。休日に実家近くの子供に教えはじめます。後に結婚退職、自宅で教室を開き本格始動。「ここでは無名の短大卒で自信も今一つ、專業じゃなかつたし心もとないスタートだったけど、地道にやっているうちに少しずつ教室として形になってきました」

それから約40年、確かな指導で人気教室に成長し、ここ数年は大人・シニア生も増えてきました。「過去の失敗や遠回り、自身の病気や一人で暮らす父の見守り。重ねてきた経験が、大人・

シニアの生徒さんへの理解と共感に繋がっているのを感じます」

「ピアノをシニアにおすすめる理由は
「まず、楽器の持つ力。鍵盤を押しさえすれば音が出る、調律によって音階がもう出来ている。自分が息を切らさなくても代わりに歌ってくれる。それって老若男女問わずその人なりのいろんな楽しみ方が可能、ということ」

大人の生徒さんは真面目ゆえに、つい演奏が楽譜との「答え合わせ」になりやすい。「そういう真剣さ、大好き。でもそればかりではもつたいない。ピアノの音色・音楽の美しさと精巧さに、一緒に感動したい」「ピアノにも難しさは当然あります、練習は必須です。でもシニアの方ってへこたれないし、上手く弾けないご自分を受け入れ楽しむ度量があります」

「この頃はYouTubeなど独習の手段が充実しています」

「私も発表会用ドレスを見よう見まねで縫うくらいなので独学は好き、否定はしない。でも、シニア世代のピアノは、レッスンを受けることを勧めます」と、キツパリ。「読譜に躓く方は意外と多いし、自分に合った練習方法を編み出すのは簡単ではない。そこは我々指導者に任せて欲しいな。一人でするより上達が早い、上達すれば楽しいですから。そしてレッスンに行くという…定期的な外出が、生活にほどよい緊張を生みます。外出が難しくて出稽古を頼んだとしても同じ、先生が来る日は着替えていつもより念入りにお掃除しますよね。そういう些細なことが、自分を大切にすることに繋がると思う」。レッスンで得るものは演奏の上達だけではないと語ります。

「プレシニア・シニアへのメッセージを」

「私はそもそも落ちこぼれ先生なので、今も勉強に追われ続けています。生徒の演奏を通して大先輩にお褒めいただいたりすると、『やった！○○先生に褒められた！』と本当に嬉しい。やはりいくつになっても、人から認められる・褒められることは喜び。弾いてみたいと思われるなら、どうぞ迷わずレッスンに行ってください。そしてたくさん褒められて元気になってくださいね」

「ご自身やパートナーの退職、お子さんの独立、新しい方との別れ。今まで『役目』ゆえに負っていた責任から解放され、自ずと人間関係もシンプルになって『個』としての自分が見えてくる。60代って新たなライフステージに進んで心持ちもちょっと変わるときだと感じています。自分の70・80代を具体的にイメージし始めますしね。

長いシニア期をより健康により楽しく過ごすための小さなチャレンジ。ピアノは十分その役割を果たします。シニアこそピアノです。一緒に楽しみましょう！」



学校とピアノ

school 01

進学校でのピアノ授業

九州支部 宮本日出夫

オトノトピラ7号で澤口俊之先生が執筆された「習い事はピアノだけでよい」の記事を読んで、九州一の最難関校、久留米大学附設中学・高校の授業でピアノを弾いているとの事を卒業生から聞いたのでお話を伺いに行きました。

同校の卒業生でもあり東京大学へ進学された現校長の町田健先生にお話を伺いました。

町田先生によると、54年前に入学したときから芸術の時間があり、中学では美術と音楽を、高校では美術を履修することができて、ピアノやバイオリンなどの楽器に親しむことができる授業が行われていたそうです。

その理由として定かではありませんが、古代ギリシャでは音楽が秩序に基づいている理由で「四学(クアドリウィウム)」の一つとして数学と同様に位置付けられていて、豊かな人間性を養うことが出来、特にピアノは右脳の活性化にも繋がるので当時よりピアノの演奏を伴う授業があったのではないかと推測しますとのことでした。現在は音楽・美術・書道・陶芸が芸術の選択科目で行われており、11月には2週間の芸術期間中、昼休みの30分間にピアノ・バイオリン等の演奏会が催されています。



「響け! ムジーク永久に ~未来へつなぐ音色~」 びわ南小学校「フォイリッヒのつどい」

実行委員会事務局 中川 有紀

滋賀県北部長浜市にあるびわ南小学校の正面玄関ロビーには、時を超えて響く音色がある。大正時代に寄贈された一台のグランドピアノ「フォイリッヒ」。それは今もなお現役で、子どもたちの小さな手で奏でられ、地域の人々の記憶と共に生き続けている。

このピアノは、大正12年にドイツからやってきたフォイリッヒ社製のグランドピアノだ。子どもたちが「世界の一流の音楽に触れられるように」との想いから、地域住民より寄贈されたものだ。当時の校長や先生たちが地域住民に戸ずつ寄付を募ったのだ。滋賀県下でもグランドピアノを有する学校は少なかったようで、誇らしい様子が「百年のあゆみ」という小学校の記録の中に記載されている。外装は少し傷んではいるが当時は木目が美しく黒光りしていたのだろう。やや黄ばんだ鍵盤、そこから響いてくる音色はやさしく、深い味わいがある。蓋を開けると、裏側に「大正十二年寄贈 皇太子殿下御慶事記念」という真鍮のプレートがある。それから100年余り、子どもたちが気軽に触れることのできるピアノとして親しまれ、大正・昭和・平成・令和と4つの時代や世代を超えて、この学び舎で音楽の楽しさを届け、子どもたちを見守ってきた。

しかし、時の流れには逆らえず、ピアノのコンディションは万全とは言い難かった。一世紀にわたって子どもたちの音楽教育を支えてきた「フォイリッヒ」の優しい音色を、100年後の未来へつなぐために、私たちはクラウドファンディングに挑戦することにした。折しも、令和5年11月に行われた創立150周年記念事業で再び脚光を浴び、「100年ピアノを残そう!」と機運も高まりを見せていた。



創立150周年の記念式典、第二部演劇公演として、「フォイリッヒ」を主役にしたミュージカル『時とともに響け!～奏とピアノ物語～』を上演した。校長室前に置かれている「フォイリッヒ」を休み時間に弾いていると、大きな音がして、気づくと大正12年にタイムスリップをしてしまう子どもたち。大正、昭和、平成、令和と時空を超えて不思議な体験をして、小学校や学校の歴史を学び、「フォイリッヒ」との関わりを通して成長する子どもたちの物語だ。このミュージカルは脚本・演出・スタッフ・キャスト、すべて地域住民の手でつくられた。テレビや新聞の取材もあり、支援の輪は広がり、希望額100万円を優に超える160万円もの支援をいただいた。現在も、保存維持の趣旨をご理解いただき、地域の企業をはじめ、地域の方々にご支援をいただいている。

そして、昨年11月にピアニスト末永 匡氏を迎え、「第一回フォイリッヒのつどい」と称し、リニューアルしたフォイリッヒのコンサートを開催した。正面玄関のロビーコンサートだったので、客席も音響もホールのそれではなかったが、プロの素晴らしい演奏、息遣い、指の運びまでつづさに見られるコンサートに、子どもも大人も息をのみ興奮した。「フォイリッヒ」も100年経って、プロの手で故郷の作曲家ベートヴェンの曲を奏でることになるとは思っていなかったことだろう。これからも「フォイリッヒのつどい」は年に一度秋に、過去と未来、小学校と地域、それぞれの思いをつなぐコンサートをしていく。



令和7年は10月末に、プロの素晴らしい演奏の前座としてオーディションをして子どもたちの演奏も加え、コンサート開催日までにピアノという楽器の成り立ちなどを紹介する予定だ。入学してから毎年6年間、毎年趣向を変えたコンサートに参加することで、「フォイリッヒ」の歴史、ピアノの歴史、地域住民の思いなどを学び、地域への愛情を受けていることを誇りに思って卒業してほしい。過去を「音」で感じることで未来へと思いをつないでいく、このピアノは、地域の記憶を宿した「生きた文化財」なのではないだろうか。大正時代の先人たちから、今を生きる私たち、そして未来へ、受け継いだ熱き想いをつなぐ架け橋となるよう、温かく柔らかな音色を響かせてほしいと願っている。

▼国家検定一級ピアノ調律師 KAWAI 委託調律師
奥村 敏樹さん





ペットとピアノ



柴犬

そらんさん
女子 7歳

好きな食べ物
豚ミミ(ミミガー)

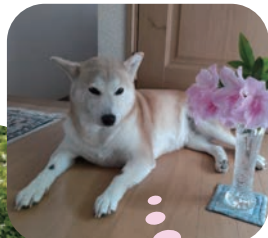
大阪府茨木市

「ピアノを弾くよ」と、言うどピアノの前まで走ってきて演奏に合わせて歌います。

ベートーヴェンは好きじゃなくて、歌いません。

ショパンが好きです。

ショパンを弾くとこきげんで歌いますが、ピアノの演奏が聴こえなくなることもしばしば。(柴柴)



柴犬

麻呂さん
男子 15歳

大澤愛 (ピアノ講師)

我が家の犬は、お気に入りの曲が聞こえると、ピアノが置いてある部屋のドアをカリカリと爪を立てて叩いてくる。

部屋に入れるとピアノの足元に座り、耳を澄ませてリラックスする。

そして優しい旋律を耳にすると、顎を上げて「ウォーン」と歌い出す。

音に寄り添って彼なりのハーモニーを重ねてくる姿は、一緒に音楽を創っているようで心が温くなる。

彼にとっても大切なピアノの調律は、20年来の調律師さんをお願いしていて、調律の間は静かに階段の上から耳をピーンと立てて、1階の様子を伺っている。

彼にとって、ピアノはただの楽器ではない。生まれた時からそばにある生活の一部であり、ピアノの音は安心を感じ、眠りを誘う子守唄であり、また、歌うための伴奏者でもある。

音のひとつひとつが、彼にとって心地よい風のように感じられるのだろう。

調律は、彼と私にとって、ピアノを万全な状態にする技術だけではなく、聴く者の心を整えるための大切な仕事だと思う。

ピアノの音が美しくなると、彼も私も、幸せな気持ちになれる。

その大切な役割でいてくれるのが、調律師さんなのだ。



♪麻呂の歌声は
Instagramで公開中



調律師から見たピアノのお稽古



日本ピアノ調律師協会 / 吉川 満之

私はピアノ調律師になって今年で50年になります。

その間には3歳児からプロのピアニストに至るまで多分約2万台以上のピアノを調律してきました。そのような中である時気づいたことがあります。その内容をピアノを愛する皆様と共有し、お稽古を続けるヒントになれば幸いです。

私が浜松での修行を終え、渋谷のピアノメーカーのディーラーで働きはじめたのは昭和54年(1979年)でした。当時はまさにピアノブームで女の子ならかなりの確率でピアノのお稽古をしていたのではないのでしょうか。しかし、習いはじめて数年するうちに辞めていく子が多く、中学に入っ続けている子は数人しか残っていませんでした。弾かなくなったピアノは言うまでも

なく調律もしなくなり、我々の死活問題でもありませんので、続けられた子供とそうでなかった子供たちの違いは何かということとをずっと考えていました。そして、その違いは大きく分けて二つに集約されることに気づきました。

その①育った家庭に音楽があるか？ (あったか?)

我々は直接お客様の家に行きますので、その家庭に音楽があるかないかということがわかります。

続けられた子の家には音楽が好きな人がいました。人間にとって人生での最初の音楽体験は母親の子守唄ではないでしょうか。歌うことの好きな母親を持った子供は音楽が好きです。ピアノを続けるために大事な

ことは、まず、音楽を好きにさせてあげるといふことではないでしょうか。

母親に限らずお父さんがギターでビートルズを歌っている、おじいちゃんがクラシックレコードをかけている、おばあちゃんが合唱サークルに入っているなど、音楽を聞くという状態以上にまさにそこに空気がようにあるという環境を作っていました。



脳科学の専門家によると人間の成長過程の行為はインプット(入力)から始まりアウトプット(出力)する。

例えば、目から入ってきた情報で口の形、仕草を真似し、耳から入ってきた音声、音楽、言語を繰り返して出力し、さまざまな能力を獲得していくそうです。

音楽の入力を十分に受けた子は必ず出力したくなり、鼻歌(hum)を歌っています。そしてその次の過程が楽器の演奏ということになります。インプットされた曲を楽器でアウトプットした時の子供たちの表情は輝いていますね。

それから日本人の約1%弱しかないと言われるキリスト教の家庭で育った子供たちはピアノを続けられることが多いです。言うまでもなく彼らは西洋音楽の原点というべき賛美歌を聞き、歌っています。

マエストロ小澤の家庭もクリスチヤンの母親が毎日息子たちと合唱していたそうです。

ピアノを続ける上で大事なことは生活の中に音楽を取り入れ好きにさせてあげることでないでしょうか。

その②先生との出会い

ショパン弾きとして有名だったアルトウール・ルービンシュタインはピアノを習う時は幼児からピアノニストになるまで先生は最低5人必要であるかもしれないと言いつ残しています。初心者から思春期までを指導するのが得意な先生や音大生以上ピアノニストを教えるのが好きな指導者など様々なタイプの先生がたくさんいます。ですが、ロシアの天才ピアノニスト、エフゲニー・キーシンのようにアンナ・カントウール女史に幼少期から指導を受け、有名になってからも演奏会などでは彼女から助言を受けているそうです。



それから欧米からの帰国女子の方々もピアノを辞めなかった子が多いと感じました。ロンドンから帰国したある駐在員家庭の母親から聞いた話ですが、その息子さんの先生はイギリス人の男性で時々コンサートも開いていて、演奏の実力もかなり高かったようです。彼は生徒が全然練習していないとわかると「今日は僕が弾こう」と言い、ショパン、ベートーベンなどの名曲を次々と弾きはじめてそうです。最初、母親は変わった先生だと思っただけで見ていたのですが、やる気のなかった息子の目がみるみる輝きだしたそうです。家の古いアップライトピアノでこんな素晴らしい音楽が奏でることができると感動したそうです。その後息子はピアノの先生が来てレッスンの初めに演奏を聞くのが楽しみになりピアノが大好きになったそうです。

最高のインプットですね！その子は今では医者になりピアノを弾きながらいるそうです。

我々調律師はピアノの先生とは違った角度でお稽古のお手伝いができるかもしれません。

ピアノライフを 楽しもう!!

ピアノライフのためのグッズ特集



NO.75



BM-45H 茶



BM-45H 黒

名陽木工

イドラウ社

- ジャパンプライドを企業理念
- すべての製造工程を日本国内で行い椅子を製作
- NO.75 は、座面を厚くし、長時間の演奏や練習が可能な仕様

- スペインのバレンシアにあるピアノ椅子専門会社
- 2024年秋の大洪水で被災したが創業50周年にあたる2025年、なんとか製造再開にこぎつける
- ガスズプリングタイプやコンサートタイプ椅子が人気の注目の会社
- BM-44H、BM-45H は、座面に傾斜がついているため、演奏しやすい

詳細は「株式会社甲南 ピアノ」で検索 🔍

サムミュージックデザイン

- 台湾発のクラシック音楽をテーマにしたギフト商品を開発
- 音楽通にも受ける創造的なデザイン
- 日本や東アジアのほか、アメリカやヨーロッパ各国へ商品を展開中



ピアノライン

- 性別、年齢を問わず使える
- 文具、バッグ、雑貨、アクセサリ、インテリアなど幅広い品揃え
- リーズナブルな価格設定



第2回

ストリートピアノ

香川県
高松市



場所

〒760-0029
香川県高松市丸亀町 1-1
壱番街ドーム広場

10時～17時30分頃まで
無料で誰でも自由に弾くことができます。
ピアノ アップライトピアノ KRAUS

日本一長いアーケード商店街の一つの高松中央商店街、その中央広場に設置してあるピアノです。この広場は日本一の規模となる高さ32mのクリスタルドームに覆われています。

広い解放感のある場所で弾いてみませんか？





場所 愛知県岡崎市
JR 岡崎駅 2F コンコース西口

開始年月日：2022年12月23日

ピアノはU2寄贈品。

翌2023年1月からNHK大河ドラマ「どうする家康」がスタートするのに合わせて、三つ葉葵の紋をアレンジしたラッピングをしてあります。

岡崎市シビックセンターとの共催でエキナカコンサートも開催します。

愛知県岡崎市のストリートピアノはJR岡崎駅構内コンコース西口側に設置してあります。

利用時間は9時～20時頃まで。
どなたでも自由に演奏できます。

但し、練習使用は不可。一人1～2曲。通勤、通学の傍ら、散歩がてら、等たくさんの方に弾いてもらっています。



ラッピング



ストリートピアノ開始セレモニー



エキナカコンサート





調律師趣味の本

「ビル・エヴァンスについてのいくつかの事柄」

中山康樹 著
河出書房新社



日本ピアノ調律師協会
九州支部
足立 修治



当のビル・エヴァンスは、「若い頃にクラシックのピアニストになるか真剣に悩んだ」といいますから、本人もやはり、この二つは完全に違う、一度入ったら後戻りなんて出来ない音楽として頭の中にあつたと思われる。

今となつては、ジャズに来てくれてありがとう！と多くのジャズファンは思うかもしれませんが。しかし、彼の音楽がクラシックの音楽番組で扱われるというのは、クラシックサイドからみても共感するものが間違いなくあるということなのでしよう。

驚くべき事は、彼の音楽性が芽生え、何とかそれを繋げられた時代というのは、ジャズのメイン楽器は少なくともピアノ

少し前のことになりましたが、テレビやラジオのクラシック音楽番組で、ビル・エヴァンスが取り上げられていることを知りました。

ジャズサイドからすると、それはとても違和感のあることではなかったかと思えます…。

ではなかったし、エネルギーシユなモダンジャズの時代であり、そこをずっと、暗く、決して窓を開けて外に出ていくようなことのない内へ内へと入ってくる音楽を貫いたこと。貫けたこと。そして、数十年経った今、この日本で、そして、ヨーロッパではずっと彼の音楽が高く評価されているらしいことです。

あの時代、しつこいほどのダブルトリルでアプローチしたり、ペダルを駆使した独特な音使い(時に夢のような...)とブロックコードの多様などは確かに斬新で不思議さでいっぱいです。

クラシックサイドからみても、彼の音使いを分析したくなるのも分かる気がします。

さて、前置きが長くなりましたが、中山康樹氏の本というのは、そんなクラシックサイドからではなく、完全なるジャズサイドの力のこもった凄い本です。

まったく謙虚に「:いくつかの事柄」とありますが、これは「いくつか」どころか

全ではないか!と評価したい内容です。この本には、大きく分けて4つのポイントがあります。一つは、エヴァンスの独自性(ユニークさ)に触れる部分。二つ目は、マイルス・デイヴィスとの関わり。三つ目は、信頼する共演者との突然の別れ。四つ目は、迷走。

中でも、3番目の、ベーススト、スコット・トラファロとの別れに触れる部分は印象的で、中山氏本人も相当な思い入れがあるはずなのに、幾つかの証言で事実を書き述べるだけで、ジャズ界で最も悔やまれると言ってもいい事件(事故)に対して、自身の感情を他人の証言の中で示すという手法を取っています。

全体として、当然のことながら、エヴァンスの音楽(曲やアルバム)を追っていきますから、彼の音楽を知らないよりは知っている方がよりスリルを伴って読めると思います。なぜ「スリル」なのかと申しますと、中山氏の鋭い分析、検証、私論の展開、真実(時には定説をも覆

す)により、ジャズというその時その時に簡単に過ぎていくだけの音楽がそうではなくなっているからです。意味をもたせ、重要な事実を暴いていくかのような彼の展開にドキドキ感さえ覚えます。文章なのに、これこそジャズの凄さだと勘違いしそうです。

彼の方法は、調律師の、ピアノに起こるいろいろな症状を、こうなるのは一体何が原因でと分析し、そうならない為にどうすべきかと考え、施しを試しつつ解決に至り、確信を得る:といった仕事を思い起こさせ共感します。

中山康樹氏が亡くなって約10年。追悼の意味も込めてこの本を取り上げさせて頂きました。



アップライトピアノが入るなら、グランドピアノも入る?!

アップライトピアノからグランドピアノへの入れ替えを考える際、「この部屋にはグランドピアノは入らないかも?」とご相談を受けることがあります。

ところが実際には、アップライトピアノが入る部屋の多くに、グランドピアノも入るのです!

アップライトピアノの搬入時は、外装などを外さず、ピアノの形そのままを布団で包みます。ピアノ運送専門業者さんが、ピアノの下から襷掛けをして、2人で持ち上げ、玄関や掃き出し窓からお部屋へ搬入します。横から見ると、アップライトピアノは鍵盤部分かなり出っ張っているのがわかります。廊下から部屋に入れたいけれど、曲がり切れず搬入できない場合は、ピアノを縦に起こし、ドアを外すなどして鍵盤の出っ張りを回避しながら搬入します。

2階にアップライトピアノを入れる場合も、布団で包みます。そしてペダルの根元付近の重心点から帯を巻いてバランスを取り、ユニック車で建物の2階より高い位置まで吊り上げて引き上げます。

みなさん、空高く浮かぶピアノを見たことがありますか? 風に揺れるピアノを見ているとドキドキしますが、下から眺めると意外と小さく見えるものです。電線や屋根の庇に注意しながら、搬入する部屋の窓前まで慎重に近づけ、窓枠を枕にして響板側を背面に、鍵盤の出っ張りに気をつけながら部屋へ引き入れます。

一方、グランドピアノの搬入は、ペダル部分と脚3本を外し、ボディ本体だけを縦に起こして梱包し、木枠に乗せた状態で運搬します。

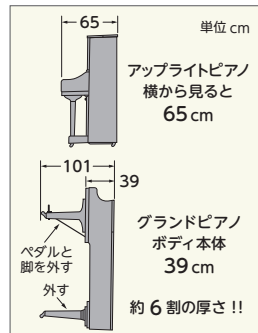
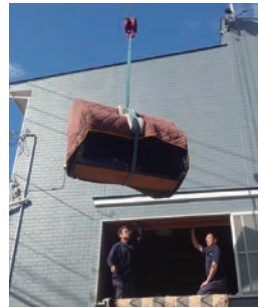
では、なぜアップライトピアノが入る部屋にグランドピアノも入るのか? グランドピアノを90度縦に起こした状態で天屋根側から見ると、大きな鳥の羽のような形に見えますが、鍵盤側面から見ると、ボディ本体の幅だけの平らな形状になります。つまり、アップライトピアノのような側面の出っ張りがなく、厚みもアップライトピアノの約6割程度なのです。

グランドピアノも2階への搬入は、アップライトピアノと同様に、2階より高く吊り上げて窓枠を枕にし、響板側を背面にして部屋へ引き入れます。

アップライトピアノもグランドピアノも鍵盤数は88鍵で、間口はほぼ同じ。しかもグランドピアノには鍵盤の出っ張りがないため、アップライトピアノが入っている部屋には、グランドピアノも意外とすんなり入ることが多いです。

ただし、搬入後に開梱して横に寝かせ、脚3本とペダルを取り付けてグランドピアノ本来の姿にすると、アップライトピアノよりも断然広い面積を取るのは事実です。とはいえ、小型グランドピアノなら4畳半、中型なら6畳間でも十分に設置可能です。しかもグランドピアノの下は空間があるので、ちょっとした収納スペースとして活用することもできます。

もちろん、物件やピアノのサイズによっては搬入ができないケースもあります。移動の際は、ピアノ運送業者に下見を依頼するか、当協会所属の調律師にご相談いただくことをおすすめします。





4月4日はピアノ調律の日

お元気ですか、あなたのピアノ。

2011年度よりピアノ調律職種に国家資格制度が
導入されています。

ピアノの調律は、厳正な技術審査を経て入会した
日本ピアノ調律師協会会員にお任せください。

日本ピアノ調律師協会は、わが国の音楽文化の発展に寄与
することを目的として、さまざまな事業を行っています。



令和7年10月30日発行

編集・発行 一般社団法人 日本ピアノ調律師協会
〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 5階
TEL.03-3255-3897 FAX.03-3255-9246 E-mail. info@jpta.org
本文編集 中部印刷株式会社

編集後記

オトノトビラは、一般社団法人 日本ピアノ調律師協会の会員が制作しております。
協会会員は、研修会、研究会、会員同士の情報交換など、よりよいピアノ技術を皆さま
にご提供できるように活動しております。

読者のみなさまには、このオトノトビラを通して私達調律師と共にピアノライフを楽しんで
いただければと思います。

発行にあたり、ご協力をいただきました皆さまに感謝を申し上げます。

広報局 吉川武文



読者さまからの投稿募集

オトノトビラでは、読者のみなさまからの
ピアノに関する投稿を
お待ちしております。

- 私流ピアノの楽しみ方・ストリートピアノ体験記
- ペットとピアノのエピソード・珍しいピアノを見つけました
- 他、こんな記事が読みたいなどのご希望
文章と、写真やイラストを下記まで送信してください

郵送は受け付けておりませんのでメールでお願いいたします

送付先(オトノトビラ係) | kouhou2024@jpta.org

※投稿いただいた原稿は将来的に協会発行物、
ホームページ等に掲載されることがありますので、このことをご承諾の上で投稿ください



一般社団法人 日本ピアノ調律師協会
Japan Piano Technicians Association

HP | <https://www.jpta.org>

E-mail | info@jpta.org